

1 単元名 古代までの日本 「古代国家の歩みと東アジア世界」(全7時間)

美濃加茂市立東中学校 阿部杉子

2 単元のねらい

大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家のしくみが整えられ、その後、天皇・貴族の政治が展開されたことを、聖徳太子の政治と大化の改新、律令国家の確立、摂関政治を通して理解させる。

古代の日本において国際的な要素を持った文化が栄え、やがて文化の国風化が進んでいくことを、代表的な事例を取り上げて理解させるとともに、日本の文化財に対する関心をもたせる。

3 単元で培いたい学び方

日本の古代社会形成に関する社会的事象に対する関心を高め、大陸との交流に支えられた律令国家の成立期を経て天皇・貴族の政治が展開してきたことを政治の流れを中心に理解する学び方。

4 内容のまとめりごとの評価規準 歴史的分野の内容(2)ウ・エ 「古代までの日本」

ア 社会的事象への関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断	ウ 資料活用の技能・表現	エ 社会的事象についての知識・理解
国家の形成と天皇・貴族の政治の展開のあらしや文化などに対する関心を高め、意欲的に追究し、文化遺産を尊重しようとする。	国家の形成と天皇・貴族の政治の展開のあらしや文化などから課題を見だし、歴史の流れと時代の特徴を多面的・多角的に考察している。	国家の形成と天皇・貴族の政治の展開のあらしや文化などに関する様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究し考察した結果をまとめたり、説明したりしている。	国家の形成と天皇・貴族の政治の展開のあらしや文化の特徴などを、我が国の歴史とかかわる東アジアの歴史を背景に理解し、その知識を身に付けている。

5 単元の評価規準

	ア 社会的事象への関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断	ウ 資料活用の技能・表現	エ 社会的事象についての知識・理解
単元の評価規準	国家の仕組みが整えられ、天皇・貴族の政治が展開されたことに対する関心を高め、意欲的に追究したり、国際的な要素をもった文化が栄え、後に文化の国風化が進んだことに対する関心を高め意欲的に追究したり、文化遺産を尊重しようとする。	聖徳太子の政治と大化の改新、律令国家の確立、摂関政治を通して、歴史の流れと時代の特徴を多面的・多角的に考察したり、古代の文化の特徴を代表的な事例を取り上げて多面的・多角的に考察したりしている。	国家の仕組みが整えられ、天皇・貴族の政治が展開されたことや、国際的な要素をもった文化が栄え、後に文化の国風化が進んだことに関する考古学の成果や映像、文献などの様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究し考察した結果をまとめたり、説明したりしている。	国家の仕組みが整えられ、天皇・貴族の政治が展開されたこと、国際的な要素をもった文化が栄え、後に文化の国風化が進んだことを、我が国の歴史とかかわる東アジアの歴史を背景に理解し、その知識を身に付けている。
学習活動における具体的評価規準	聖徳太子の国づくりの理想と、太子死後の日本の歴史を比較し、単元を貫く課題に関わる疑問をもつことができる。 【第1時 ノートの記述・発言内容】	仲間との交流を通して、貴族と農民の生活の差を生む原因について、自分の考えを深めている。 【第4時 発言内容】 政治の動きや社会背景の変化をもとに、奈良時代と平安時代の文化の特徴を説明することができる 【第7時 発言内容・ノートの記述】	改新の詔から新しい国づくりの方針を読み取っている。 【第2時 発言内容・ノートの記述】	政府組織と土地制度、税制といった律令国家の基本的な仕組みを理解している。 【第3時 ノートの記述】 藤原氏と天皇の関係が説明でき、摂関政治の基本的な仕組みについて理解している。 【第5時 授業のまとめ】 有力農民が自分の財産を守ろうと努力していたことを理解し、5行程度の文で農民の思いを書くことができる。 【第6時 ノートの記述】